

令和7年10月 定例教育委員会会議録

〈 開会 10時00分 〉

開 催 日	令和7年10月23日（木）10時00分～11時00分		
開 催 場 所	半田市役所 庁議室		
出 席 委 員	教 育 長 榊原雅晃 委 員 久米宏和 委 員 正村日登美	委 員 新美 大 委 員 桂 優子 委 員 堀崎隆資	
説 明 の た め 出席した職員	教 育 部 長 森 田 知 幸 主任指導主事 木 下 稔 章 生涯学習課長 青 木 美 希 スポーツ課主幹 河 合 信 二 博 物 館 長 関 正 樹	学校教育課長 内 藤 誠 給食センター所長 榊 原 秀 夫 ス ポー ツ 課 長 門 田 和 博 図 書 館 長 藤 井 寿 芳 新美南吉記念館長 遠 山 光 嗣	
事 務 局	学校教育課総務担当主査 羽根 広		
報 告 事 項	■報告事項 (1) 後援願について (2) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (3) 学校給食費の負担額変更に関するお知らせ (4) 各種事業について ①ロビーコンサート（半田市医師会健康管理センター共催事業） ②令和8年半田市二十歳の集い ③はんだスポーツの日イベント 2025 の開催 ④金融講座「図書館で学ぶお金のキホン」 ⑤環境学習イベント「廃材アートでだし丸くんを作ろう」 ⑥「かめとしょうくわくまつり」 ⑦「第40回博物館友の会合同展」 ⑧博物館講座「てんこく」 ⑨博物館講座「古地図と楽しむまちあるき」 ⑩企画展「絵に描かれた昔の岩滑」の開催 ⑪童話の森の文化祭		
各課事務連絡	博物館、給食センター		

＜議事録＞

1. 前回の会議 録の承認	(事務局) 9月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	(教育長) 9月26日、学校訪問で亀崎小学校へ行った際、改築中の校舎の外観が見えるようになっており、遠目からも立派な校舎が見え、地域の誇りとなるような建物という印象を受けた。引越しは大変だろうが、100年に一度と言ってもいいくらいの歴史に残るイベントとなるので、必要なことは記録に残しながら、児童と教員とが力を合わせて、思い出に残るように楽しく取り組んでいただけたらと願っている。 10月1日、正村委員の新たな任期の始まりとなる辞令交付式を執り行った。改めて4年間、よろしくお願いします。 19日、半田市美術展審査員を囲む会に出席した。翌日からの美術展に向けて会場準備と審査を実施した。市長と議長にもお越しいただき、運営委員と審査員に感謝する会という形で行われた。審査員から部門ごとに講評の言葉をいただいたが、どの部門においても出展作品が減っていることを心配されていた。特に彫刻部門は、出品数が極端に少なく審査に苦勞されていた。今年で78回目という非常に長い歴史があり、伝統を守っていくと同時に、芸術文化を育てていく役割もあると思う。出品数や来場者数を増やすにはどうしたらいいか考えさせられた。
■報告事項 1) 後援願	(学校教育課長) ・後援名義使用許可 22件
2) 児童生徒 (園児)の交通 事故・問題行動 等	(主任指導主事) 令和7年9月13日～令和7年10月10日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：2件 10月 1日(水) 1件 10月 7日(火) 1件 問題行動(被害)等：3件 7月 4日(金) 1件 8月17日(日) 1件 10月 6日(月) 1件 交通事故以外の事故：2件 9月25日(木) 1件 10月 6日(月) 1件 学校等被害等：0件 不審者情報：1件 9月18日(木) 1件
3) 学校給食費 の負担額変更 に関するお知らせ	(給食センター所長) 近年の食材費高騰を受け、令和7年4月の給食から、小学校は50円引き上げの300円、中学校は60円引き上げの350円に給食費を改定した。

ただし、徴収額については、教職員は改定額に合わせて変更したが、児童生徒の給食費については急な値上げによる保護者負担を考慮し、今年度においては改定による増額分を「経過措置」として、一時的に公費で負担してきた。

しかしながら、物価高騰が続く中、給食の安全と質を維持し、安定供給を続けていくためには、保護者の皆さまに適正な費用をご負担いただき、必要な財源を確保することが欠かせない状況となっている。今年度は一時的に公費で負担してきたが、この負担を続けると、人件費や施設維持費など、本来公費でまかなうべき財源が不足するおそれがある。

こうした状況と、改定から一定の周知期間も経過していることを踏まえ、来年度からは本来の費用負担のあり方に戻し、経過措置を終了して、給食費の全額を保護者負担とさせていただく。

（正村委員）

多くの保護者は、1食あたり250円や290円で給食が提供されていると認識していると思うが、実際には1食当たりいくらかかっているのか。

（給食センター所長）

保護者に負担いただいている250円や290円というのは食材費のみの金額であるため、それに加えて1食あたり200円程度の経費を市で負担している。

1食あたりの市費負担額は、給食センターの総事業費から、保護者負担分である食材購入費と、新学校給食センター建設に係る費用といった例年にない大きな要因を除いた額を、延べ給食数で割って算出している。

事業費は年度によって変動があるため、1食あたりの市費負担額は、令和4年度は165円、令和5年度は202円、令和6年度は228円となっている。

（正村委員）

本来はこれだけの費用がかかっており、保護者負担はこの金額で済んでいるということを伝えられるとよい。こうした点を「見える化」することで、今回、保護者負担が増えたとしても、理解をしてくださる保護者もいると思う。公表可能な内容であれば、こうした情報もあわせて保護者に周知すると、より理解しやすくなるのではないかな。

（給食センター所長）

一昨日、学校給食運営協議会の委員からも、「給食費は食材費だけなのか」といった同様の質問があった。給食費については、意外と理解されていない部分があると実感した。いただいたご意見を踏まえ、周知をする。

（久米委員）

通知文書（案）の中に、「給食費の全額を保護者負担」と書かれているが、その表現だと経費のことまで含むように誤解されてしまうかもしれない。

（給食センター所長）

確かに誤解を招くおそれがあるため、給食費は食材費を指すものであることを、分かりやすく明示する。

（新美委員）

例えば、市の負担額も50～60円上がっていれば、令和8年度から保護者負担が増えることについても納得されやすい。2割も上がったのかと感じる保護者もいると思う。

令和7年度の1食あたりの市費負担額はいくらか。

（給食センター所長）

市費負担額は事業費の決算額から算出するため、令和7年度分については、まだ計算していない。

改定前の給食費は、小学校250円、中学校290円であったが、それでは全く足りない状況であった。市が負担するにしても、保護者に対し本来の給食費を示した上で、公費負担の内容を明らかにすることが必要と考え、令和7年度に給食費を改定した。そのうえで、値上げ分を市が経過措置として負担したが、今回は市が負担していたその値上げ分を保護者にご負担いただくものである。

（新美委員）

令和6年度は公費負担していないのか。

（給食センター所長）

令和6年度以前においても公費負担をしている。給食費は改定せず、食材購入費の一部を公費で賄っていた。

（新美委員）

給食を作るのに、本来いくらかかっており、公費でどの程度負担しているのかということを、当時、保護者は把握していたのか。

（給食センター所長）

保護者にはその内容を周知していなかったため、公費でいくら負担していたかは知られていない。

（新美委員）

これまで市が負担していた分を、急に保護者負担に切り替えるということは、保護者からすると突然の話と受け止められると思う。

（教育長）

	補足だが、学校給食法第11条において、給食の費用は食材費を保護者が負担し、その他の費用は自治体が負担すると規定されている。しかし、この点は一般には十分に認識されていないと思う。令和7年度は、本来は保護者が負担すべき食材費の一部を半田市が負担していたが、令和8年度は法のとおりに戻す。その点が分かるような資料を添付するとよい。 (給食センター所長) いただいたご意見を参考に、通知文書を修正する。
4) 各種事業について ①ロビーコンサート(半田市医師会健康管理センター共催事業) ②令和8年半田市二十歳の集い	(生涯学習課長) ①医師会との共催によるロビーコンサートは今年で3回目だが、今回で最後となる。ただ、終了の理由はとても前向きなもので、今では健康管理センターが独自に毎月開催するようになったので、共催としての開催は終了するもの。まさに音楽のあるまちづくりに繋がったと考える。 ②二十歳の集いについて、今年度は令和8年1月11日に開催する。例年、式典とアトラクションの構成で、アトラクションは恩師からのビデオレターを学校ごとに50分間流していた。自分の出身校のときはいいが、他の学校の生徒が飽きてしまい外に出ていく子もいるという課題があったので、実行委員会に内容を精査してもらって別の形で開催することになった。二十歳の主張、有志発表でダンスなどやると聞いており、おもしろくなりそう。 (桂委員) 二十歳の集いについて、有志発表は事前申込み制となっているが、どのようにPRして申込みを受けるのか。 (生涯学習課長) 実行委員会が同級生にSNS等で告知し、拡散してもらうことで広く周知し、何かやりたい人に連絡してもらうよう。
③はんだスポーツの日イベント2025	(スポーツ課長) 先月の定例教育委員会でもお伝えしたが、いよいよ資料に記載の通り実施する。 これまでは午前がマラソン、午後がウォーキングとしてスポーツの体験会を開催してきたが、今回からはスポーツが苦手な方やスポーツに馴染みのない方でも気軽に参加できるような内容に変更した。 午前はランニングフェスタとしてリレーマラソン等を実施し、午後は4チームに分かれてハルスポ大運動会を開催する。申込者数は資料の記載のとおり。 教育委員の皆様には、当日のランニングフェスタの開会式への出席と、表彰式への出席をお願いする。教育長にはランニングフェスタの開

	会式であいさついただくとともに、ハルスポ大運動会では応援団長の 1 人として活用いただくこととなっている。 (桂委員) 午後のハルスポ大運動会については、4 チームに分かれて団長を中心に競うということだが、それぞれの種目で優勝を決めるのか、全体の総得点で優勝を決めるのか。 (スポーツ課長) 全競技の総得点で優勝を決める。景品もある。 (桂委員) 1 チーム 60 人程度のものであり、初めての試みでどうなるのか分からないが楽しそう。
④金融講座「図書館で学ぶお金のキホン」 ⑤環境学習イベント「廃材アートでだし丸くんを作ろう」 ⑥「かめとしょワクワクまつり」	(図書館長) ④図書館が市の施策の推進に貢献するための地域課題解決支援コーナーについて、11 月は本市でも課題になっている空き家対策をテーマにするので、それに関連する講座を企画した。タイトルは「お金のキホン」となっているが、空き家対策に向けて今から備えていこうという内容。講師は J-FLEC 認定アドバイザーの藤木氏。J-FLEC は、法律に基づいて 2024 年 4 月に設立された金融経済教育推進機構という認可法人。特定の金融機関や金融商品に偏らない中立的な立場から、金融経済に関するアドバイスを提供してくれる。藤木氏は他の図書館でも講座をやっており、協働して開催することとなった。詳細は資料に記載のとおり。 ⑤こちらも地域課題解決支援コーナーの取組みの一つ。12 月に環境課が脱炭素、いわゆるゼロカーボンの推進を啓発していくが、その中で廃材アートを使ってだし丸くんを作ろうというイベントである。ゆめくりん、環境課、図書館が協働して進めていく。詳細は資料に記載のとおり。 ⑥例年開催していた「かめざき図書館まつり」の名前をリニューアルして「かめとしょワクワクまつり」として、地域に根ざした図書館を目指した取組みをしていきたいとするもの。新たなものとしては、立川美術館と連携して一つ催しを開催する。また、ぐりとぐらのカステラをつくろうは、過去に単発で開催してきた事業だが、公民館の施設の不備により開催できなくなってしまったものをみんなで復活させるもの。今年はボランティア団体の方々と一丸となって開催できるまつりになる。
⑦「第 40 回博物館友の会合同展」 ⑧ 博物館 講座「てんこく」 ⑨ 博物館 講座	(博物館長) ⑦12 月 6 日(土)から 21 日(日)まで、「第 40 回博物館友の会合同展」を開催する。現在、博物館友の会には、「染色」「はたおり」「陶芸」「古文書」「歴史」の 5 つの部会がある。本展では、日頃の活動成果である部会員が製作した作品を中心に展示する。また、期間中には、部会員による体験・公開講座も開催する。

「古地図と楽しむまちあるき」	⑧ 12月14日(日)に博物館講座「てんこく」を開催する。日展の入選作家 田中修文(たなか しゅうぶん)先生のお弟子さんであり、日本篆刻(てんこく)家協会評議員でもある吉原愛璃(よしはら あいり)氏を講師にお迎えしてはんこを製作する。今年は来年の干支「午(うま)」を石に彫り、年賀状に使えるはんこを作る。定員・参加費等は資料に記載のとおり。 ⑨ 12月7日(日)に博物館講座「古地図と楽しむまちあるき」を開催する。この講座は、今年度はじめて開催する講座となる。博物館で所蔵している古い地図を使い、今に残る江戸時代の痕跡をたどりながら歩くことで、郷土の歴史を感じ取っていただきたいと考えている。定員等は資料に記載のとおり。
⑩企画展「絵に描かれた昔の岩滑」 ⑪ガリ版体験 ⑫童話の森の文化祭	(新美南吉記念館長) ⑩企画展「絵に描かれた昔の岩滑」は、南吉の年下の友人で6期24年にわたって市議会議員を務め、南吉記念館の建設にも尽力された石垣藤九郎さんが描いた8枚の絵を通して、南吉が暮らし、作品に描いた当時の岩滑についてご紹介するもの。会期は1月12日まで。 ⑪ 11月16日開催のガリ版体験について。多くの世代には縁遠くなってしまったガリ版刷りだが、同人誌や詩集、テスト用紙を作るために南吉もよく使っていた印刷道具である。体験では好きな図案で原紙をつくり、葉書に印刷をしていただく。現在、予約受付中。 ⑫最後に11月3日に開催する「童話の森の文化祭」について。新美南吉記念館の童話の森は「ごんぎつね」の舞台にもなった場所で、市街地近くで里山の自然に触れられる場所として市民に親しまれている。 かつては鬱蒼としていたこの森を整備しようと、NPO ごんのふるさとネットワークの呼びかけで、毎月1回有志が集まって活動している。 こうして綺麗になった森を多くの人に楽しんでもらおうとネットワーク主催で行っているのが「童話の森の文化祭」で、地元で活躍するアーティストたちが森の中に作品を展示し、ワークショップやマーケット、謎解きイベントなどを開く。
■各課からの事務連絡	(博物館長) 先回報告させていただいた旧中埜家住宅のイベントのチラシが出来た。 半田工科高校とコラボして行う「楽しく学ぼう！わくわく！けんちく！」は10月25日(土)に、「旧中埜家住宅と歴史あるあいちのたてもの」は11月9日(日)に、桐華ファッション専門学校とコラボして行う「写真で見る昭和の学び舎時代」は11月15日(土)・16日(日)に行う。各イベントではさまざまな無料で体験できるコーナーもある。
	(給食センター所長) 終業式の日給食のアンケート結果について報告する。

	終業式後すぐに保護者と学校に対してアンケートを行い、2学期に入ってから子どもたちに対してもアンケートを行った。 その結果、保護者からは、2,732件、児童生徒からは5,374件の回答を得られた。学校については、自由意見記載という形で、18校に対して行った。 保護者は、非常に満足と回答した方が62%、満足と回答した方が23%、どちらかと言えば満足と回答した方が10%と、全体の95%の方が概ね満足と回答している。そして、今後も継続してほしいと回答した方は、全体の89%だった。 児童生徒については、今後も継続してほしいかを聞いたところ、「はい」と回答したのが全体の60%、いいえと回答したのが全体の40%だった。 本日は速報のため、きちんとした集計結果は、後日、改めてお示しさせていただきます。 (新美委員) 子どものアンケート結果で、今後も継続したいかどうかの問いに、「いいえ」と回答したのが40%とのことだが、その理由は何か。 (給食センター所長) 「いいえ」と答えた理由を直接的には聞いていないが、自由意見の中でその理由に触れているものもある。ただ、自由意見は膨大な数があり、まだ整理ができていない。一部を読む限りでは肯定的な意見が多かったが、否定的な意見も含め今後お示しする。 (久米委員) 先生方のアンケートはどうか。 (給食センター所長) 学校へのアンケートは、給食実施後すぐに行い、自由意見として回答を得ている。併せて結果をお示しする。
■教育委員からの意見提言等	(堀崎委員) 10月初旬はハッピーウィークということで、小学校も中学校もいろいろと見せてもらった。1点よかったのは、ある小学校の3年生の総合の発表。発表をする前に担任が保護者向けに呼びかけをしてくれて、それがとてもいい話だった。子育てをしていくとゴールはこんな感じになるという話や、子育ては楽しいものだという話。後日、参観に来ていた知り合いの保護者に聞いたら、この話をきっかけに親子でいろいろな話ができたと話していた。ハッピーウィークも今年で3回目となり、工夫

	してくれる先生がいることを実感した。 一方で、中学校だと家庭を巻き込んだ幸せ教育はどのようにしたらできるのか。すべての学校を見たわけではないが、通常の公開授業のような学校が多かった。 ３年目となると、そんな実践もでてきて嬉しかった。 (新美委員) 小学校へ見に行ったときにいい場面があった。４年生か５年生のある子どもが発表したあとに、先生がその保護者に振った。保護者が、自分が受け取っている幸せとはこういうことだと言って言ったときに、なるほどと感心した。 中学校でも、子どもたちの前で保護者の意見を引き出す場を作ると、親ってこんなことを考えているのかというのが伝わる。保護者も参加するような形も一つの手法としてはいいと思った。 (主任指導主事) 中学校を数校見に行った。例えば、道徳の授業に合わせて「幸せ」という言葉をエッセンスとして入れて、テーマにあげられていた。ただ、担任と生徒のやりとりを保護者が見ているという通常の授業の構図。先ほど紹介された保護者を巻き込むという実践は目にしていない。確かにその形にすると、保護者も普段思っていることを言える場になると思う。 (教育長) 実践報告は集まっているのか。 (主任指導主事) まだすべてを確認しておらず、把握できていない。
次回開催等	(事務局) １１月定例教育委員会 日時：１１月２７日（木）１０時００分～ 場所：半田市役所４階 庁議室 (教育長) １０月定例教育委員会を終了する。

〈 閉会 １１時００分 〉